

原発事故から7年 福島の実況と課題

東京電力福島第一原子力発電所の事故の根本的な原因は、地震や津波が想定外だったことにあるのではなく、そうした事態に核分裂の制御がコントロールできなかったことにあります。事故後も政府は「新規制基準の適合性審査により、安全性の確認された原発の再稼働を進める」と言い、5基が再稼働しています。人間が創り出した未熟な技術が根本的な原因をクリアできたのでしょうか。ふくしまは7年経ったいま、「風評」ではなく「実害」が依然として続いているのです。多くの人々が戻れない状況で避難指示解除が何を意味しているのか。被災した人々の暮らしは何処でどうなっているのか。報道だけでは知り得ない現状を見聞し、東京電力の電気を享受している首都圏の我々が、被災者に思いを寄せて考える機会にしましょう。

よしはる

講演：齋藤 富春 氏

ふくしま復興共同センター代表委員

都営三田線・大江戸線「春日駅 A2 出口」徒歩 2 分 / JR 水道橋駅東口徒歩 15 分
東京メトロ丸ノ内線「後樂園駅 4b 出口」 / 南北線「後樂園駅 6 番出口」徒歩 5 分

足下のフレコンパックの向こうに
「第1原発」を望む

2018.3.24 撮影

5月8日(火)
18時30分～20時30分

場所：文京区民センター3A

(文京区本郷 4-15-14) 参加費：1000円

共催：新建築家技術者集団災害復興支援会議 / 東京災対連 / 防災問題を考える首都圏懇談会

<連絡先> 〒162-0811 新宿区水道町 2-8 長島ビル 2 階 TEL 03-3260-9810 FAX 03-3260-9811

メールアドレス shinken-tokyo@group.email.ne.jp